

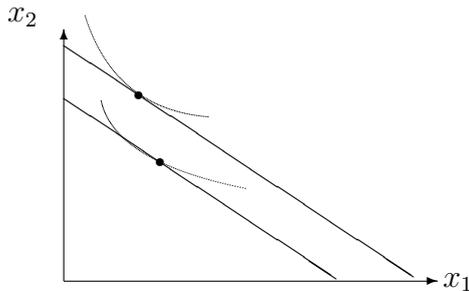
2008年度 ミクロ経済学初級I 第3回演習(30分)

グレーヴァ香子担当クラス

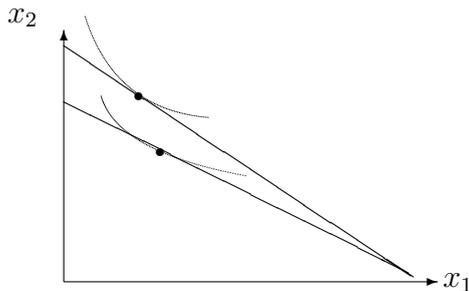
ノートを見ていいですが、他人と相談しないで自力でやりましょう。
白紙で出しても意味がないので、出来る限りやりましょう。

1. 以下の図から判断して第1財と第2財の性質について、適切な用語を括弧に入れなさい。

(a) 所得の変化の効果を考えて、このような無差別曲線群を持つ消費者にとって、第1財は(ア)財、第2財は(イ)財であると言える。



(b) 価格の変化の効果を考えて、このような無差別曲線群を持つ消費者にとって、第1財は第2財に対して、所得の補償がない場合、粗(ウ)財であり、所得の補償を考えると純(エ)財であると言える。



2. 2つの財(第1財、第2財)しかない経済を考える。ある消費者が $U(x_1, x_2) = 3x_1^2x_2$ という形の効用関数をもっていて、所得は 1980 円だったとする。第1財の価格を5、第2財の価格を1とする。

- この消費者の効用を最大にするような第1財と第2財の需要量をそれぞれ求めなさい。
- 消費税10%が両方の財の価格に上乗せされたときの、この消費者の効用を最大にするような第1財と第2財の需要量をそれぞれ求めなさい。(ヒント:第1財の価格は 5×1.1 となる。)また、そのとき消費者が支払う税金の金額を求めなさい。
- 第2財は必需品だとされ、第1財にのみ20%の消費税が価格に上乗せされたとする。このときの第1財と第2財の需要量をそれぞれ求めなさい。またそのときの税額を求めなさい。

3. ある生産者は第1財 x_1 単位と第2財 x_2 単位を投入すると $y = x_1^{1/3} \times x_2^{1/3}$ 単位の生産物を生産できる技術を持っているとする。第1財の価格を3、第2財の価格を2とするとき、 y 単位生産するのに総費用を最小にするような第1財と第2財の投入量とそのときの総費用を求めなさい。(ヒント:どれも y の関数になる。)